

令和6年度 第6回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年2月4日(火) 10:00～11:30

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

昨日はあんなに暖かかったのに、今日は本当に寒い日になった。こんなに寒い日だが、子どもたちは元気にすごしている。今日は本年度最後の学校運営協議会で、学校関係者評価が主な協議事項となるが、たくさんの意見を出していただけたらと思う。よろしくお願いします。

4 学校長挨拶

本日は、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。

子どもたちは、年度末に向け様々な活動が始まっており、来年度のことも意識し始めている。

行事としては、6年生を送る会が、1か月後に控えているということで5年生はもちろんその他の学年も準備を通して「卒業」や「自分たちの学年がもう少しで一つ上がる。」ことを実感していることがわかる。授業以外でも、子どもたちが「来年は〇〇先生かなあ」「校長先生次は〇〇先生にして。」などと、言ってくる子もいたりして、それぞれが、間もなくやってくる新年度への思いを新たにしているのだな、と感じている。

本日は「学校関係者評価」について協議をお願いしたい。子どもたち同様、私たち教職員も今年度の取組について反省し、来年度のより良い取り組みにつなげていかななくてはならない。たくさんご意見をいただき、よりよい鈴西小学校を作り上げる糧としていきたいと考えているので、本日は活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

学校だより「しいの実」25号に、令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を掲載した。今年度は男女16種目中13種目が全国平均を上回っており、8種目が全国平均を大きく上回るという結果になった。子どもたちの様子を見ると、全体的に外で遊ぶことが好きな児童が多いことや毎日遠い距離を通学していることも効いているのではないかなと感じている。もちろん裏面のように休み時間や体育科授業の取組について工夫させていただいている。

体力は、健康と直結しており体力があることで、積極的に行動しようとする意欲やもっと良いものを作り上げようとする思考力が高まっていく。体力は子どもたちの活動の源であるとも考えるので、今後も体力自慢の鈴西小学校を維持していきたいと考えているので、ご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

5 協議事項

(1) 学校関係者評価書 [教頭が資料にそって説明]

《委員の皆様から》

○自主学習の取組は、なかなか難しいが、継続して取り組んでほしい。先生の指導と家庭での協力で、内容を高めていってほしい。

○体力テストについて。突出してよい結果が見られる。

- 鈴西小学校の子は、特にボールの投げ方、体の動かし方が上手な子が多い。また、今回掲載している結果は5年生のものだが、担任が体力テストのやり方やポイントを熱心に指導しているのも大きい。校区が広く、遠くから歩いてくる中で、自然に体が鍛えられているのも大きいのではないか。
- 運動場で遊んでいるのをよく見かける。とてもよい姿だと思っている。
- クロムブックの持ち帰りについて。宿題で使うこともあるのか。
- 繰り返し学習できるドリルのソフトが入っているので、それを使うこともある。調べ学習をするために使うこともある。
- クロムブックの持ち帰りが重くて負担という意見が出ているが、教科書も内容が増えて分厚くなってきているのではないか。
- 教科書はかなり分厚くなっている。子どもの体への負担軽減を考えて、持ち帰る必要のある教科書は持たせて、あとは学校に置いておくようにしている。
- 帰宅後の児童の把握について。地域のみんなで見ていくのが大事。
- 自治会、地域で気にかけて、見ていただいているのはとてもありがたい。
- あいさつについて。子どもおり大人があいさつしていないということもある。学校だよりで地域、保護者に啓発してはどうか。
- 子どもは顔を覚えてくれている。毎週決まった曜日に登校の見守りに立っていると、子どもたちはあいさつしてくれる。定期的に立つことで、子どもに安心感が生まれるのではないかと思っている。
- 教職員の働き方改革について。定時退校日は達成率が高いが、それ以外の日はどうか。知り合いの学校だが、新規採用の職員が夜10時ないしは11時くらいになっているという話を聞いた。教師に余裕がなくなると、子どもたちにもマイナスになる。教師のゆとりは、必ず子どもたちにプラスになっていく。
- スクールサポートスタッフは、とてもよい制度。これがもっと増えてほしい。
- プリントの印刷や教材の準備などをしてもらい、とても助かっている。その分、教員は直接子どもの指導にあたることができる。
- 教科によっては、専門性の高い人に来てもらえたら。教員一人ひとり、苦手なこともある。カバーしてもらえるとありがたい。家庭科や図工などは、ボランティアで入ってもらえると非常に助かるのではないか。
- 先生もストレスが多いのではないか。先生のストレスや悩みへのサポート体制はどのようにしているか。
- 管理職が相談に乗るようにしている。一番大事なものは、保護者と教員が対話し、子どもの困り感について共有し、協力しあえる関係になること。学校からの伝え方が至らず、うまく伝わらないこともあるが、通じ合うものがあるとストレスも軽減される。
- すきなことをやっていると、ストレスもたまりにくい。今の学校の先生たちは、「教員になりたい」からなったのか、「親に言われて」なったのか。
- 「教員になりたい」からという人が多いのではないかと思う。そうでない人もいるかもしれないが、子どもの前に立って指導する責任は同じ。
- メディアで学校という職場はブラックという情報が流れすぎた。本当はそうではないと思う。教師は楽しいと感じることが多い職業。楽しい、もっとやりたいという気持ちが、周りから褒められ認められたり、自分で見つけたりしながら感じていく。周りからの支えも大事。
- 保護者と先生が気楽に話せるようにしたい。授業参観等、学校公開を通して学校のことを知ってもらい、「子どもを任せられる」という安心感を保護者にもってもらう。担任が子どもとうまくいっていれば、保護者も安心する。普段からの子どもとの接し方が大事。

(2) 情報交換

・防災井戸について

先日、久間田、深溝両地区の地域づくり協議会や自治会長の皆さんで企画いただき、防災に関する会議を鈴西小で開催いただきました。その時、以前学校運営協議会でも確認した備蓄倉庫やオリーブボックスについて改めて見学した。校内における備蓄倉庫や防災井戸のカギの在りかについて紹介した。また、防災井戸について手動のポンプが地下水脈に達していないということで、防災危機管理課が撤去した。電動のものは水脈に達しているので使用可能（停電時は、備蓄倉庫内の発電機をつなぐ）。

・人権フォーラムについて

12月に人権フォーラムに参加いただきありがとうございました。児童生徒、教員、地域の皆さんからいただいた感想をまとめたものを配付したので目を通していただきたい。概ね、子どもたちは人権の課題について自分たちだけでなく地域の大人と話すことができたことを肯定的にとらえている様子が見て取れる。地域の人権課題について、幅広い年齢層の方と議論をすることは意義深いと感じているので、来年度以降も継続していきたい。

6 連絡・その他

○来年度の委員について

○卒業証書授与式のご案内

○卒業証書授与式の服装等について

○会計監査（3月27日(水) 10:00～）のお願い

○コミュニティースクール制度化20周年記念フォーラムについて

○来年度の学校運営協議会について（年間6回の予定）

7 教育委員会より（鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 加藤稔明先生）

○学校関係者評価に、委員のみなさん一人ひとりから非常にたくさんの意見をいただきました。これほど書いていただいている学校は見たことがない。これをもとに、学校の職員が改善点を検討し、来年度の学校運営に生かしていく。

○あいさつについては、他の学校でも話題に挙がっている（知らない人に対してあいさつをしていいのかどうか）。地域の方も、見守り等でたすきをつけてもらっていると、子どもも安心してあいさつしやすい。地域の方だと認識できれば、子どもからあいさつしやすくなるので、繰り返し声をかけていただくとありがたい。

○働き方改革について。自分自身を振り返ると、子どもが大好きで、子どもと関わる仕事がしたいと思って、教員になった。子どもと関わる時間以外の業務が多く、ストレスになっていた。先生たちが、熱心に子どもの教育に集中できる環境を整えることが大事。そのために、保護者・地域の方々の力をお借りしたい。

○来年度、鈴西小学校は全校児童152名。1学年約25名というのは、多すぎず少なすぎず、教師も子ども同士も関わりやすい、ちょうどいい人数。まずは、子どもと教員のつながり、そして地域・保護者とのつながりを大切にしていきたい。来年度もご協力よろしくお願ひします。